

多言語話者である
フィリピン人日本語学習者の
母音知覚について*
—タガログ語・北部イロカノ語・
カンカナウイ語話者を例に—

丸島 歩†

キーワード： フィリピン人日本語学習者、タガログ語、北部イロカノ語、カンカナウイ語、母音知覚

1 はじめに

1.1 フィリピンの言語

フィリピンの公用語はタガログ語を基盤としたフィリピン語と英語であるが、それ以外にも多くの言語の話者が存在している。タガログ語を母語とするフィリピン人はそれほど多くはなく、フィリピン国民全体の3分の1 (Brown and Ogilvie (ed.) 2008: 1035) ないしは4分の1 (金 2004) と言われ

*本稿は丸島 (2016) で分析したデータの被験者と同じ日本語クラスに所属していた学習者のデータを分析している。したがって、データ収集と分析の方法は丸島 (2016) と同様である。また、本稿のデータの分析結果の一部は、2016年12月23日に広島修道大学で行われた外国語発音修得研究会 第6回研究集会でポスター発表を行っている。コメントをくださった方に感謝申し上げる。また、本稿の査読者の方々から有益なアドバイスを頂いた。重ねて感謝申し上げます。

†北海学園大学人文学部

ている。フィリピンは多言語国家であり¹、多くは第二言語としてタガログ語を使用している。

1.2 フィリピン人による日本語学習の現状

現在、留学生として日本に訪れているフィリピン人は1700人ほど [日本学生支援機構 [\[online: date2021z.pdf\]](#) で、留学生全体のわずか0.7%である。それゆえ日本国内の教育機関で日本語を学んでいるフィリピン人日本語学習者は多くないと考えられる。その一方で、日本に在留している外国人の10%ほどはフィリピン出身者が占めている [出入国在留管理庁 [online: 13_00001.html](#)]。また、フィリピン国内での日本語学習者は増加傾向で、特に中等教育機関で日本語を学べる機関数やそこに在籍する教師が大幅に増えている [国際交流基金 [online: all.pdf](#)]。フィリピン人が日本語を学習する機会は拡大していると考えられるものの、日本語指導に関する研究はあまり進んでいない。

1.3 フィリピンの諸言語の母音体系

フィリピンでもっとも母語話者が多いタガログ語の単母音は /i/, /e/, /a/, /o/, /u/ の5つであるが、/o/ と /e/ はスペイン語の影響である (Brown and Ogilvie (ed.) 2008: 1036)。フィリピンでタガログ語に次いで母語話者の多いセブアノ語 (ビサヤ語) は、借用語によって /e/, /o/ も用いられるものの、基本的には /i/, /a/, /u/ の3母音体系である (亀井ほか 1989: 444, Brown and Ogilvie (ed.) 2008: 198)。その他、比較的母語話者数の多いフィピンの言語の音素としての母音数は、カパンパンガン語が5母音、ヒリガイノン語、ビコル語が3母音、サマル・レイテ語 (ワライ語) は3 (方言によっては4) 母音で、比較的少ないものが多い (Brown and Ogilvie (ed.) 2008)。

本稿の被験者が第一言語の1つとして申告したイロカノ語とカンカナウイ語の母音体系についても述べておく。イロカノ語は、フィリピン第3の言語で北部ルソン島を中心に話されている。母音体系は5母音とするものと4母音とするものがある。亀井ほか (1988) では、i, e (地域によって [ə]),

¹ 亀井ほか (1992) の「フィリピン諸語」の項では、120言語が扱われている。それらの全ての語がオーストロネシア語族のヘスペロネシア語派に分類されている。

a, o, u の 5 母音としているが、Talavera et al. (2013) では [a], [i], [ʊ], [ə] の 4 母音としている。カンカナウイ語は、フィリピンのルソン島北部等で話されている言語で、話者数はおおよそ 15 万人である (亀井ほか 1988)。Allen (1977) 等では i, e, o, a の 4 母音体系であるとしているが、オンライン辞書等では 5 母音としているものもある [omniglot.com/writing/kankanaey.htm]。

1.4 母語の母音体系と日本語学習

母語話者に日本語学習者が多い言語、たとえば中国語、インドネシア語、朝鮮語 (韓国語)、英語、タイ語、ベトナム語等は、日本語よりも母音数が多い。日本語の母音の聞き分けや発音について問題とされることが少ない²のは、このことが理由であると思われる。一方で、3 母音体系であるアラビア語³を母語とする日本語学習者が日本語の母音を混同する現象がこれまでに指摘されている (助川 1993、国際交流基金 2009: 11-12)。母音数の少ないフィリピンの諸言語を母語とする学習者も、このような現象が起こる可能性が想定される。

²本田ほか (2019) は、日本語教育学会が発行する学術誌『日本語教育』の第 101 号 (1999 年 7 月号) から第 170 号 (2018 年 8 月号) に掲載されている研究論文を、テーマごとに分類している。日本語の音声を取ったものは、わずか 3 本である (p16)。3 本の研究論文の詳細を確認すると、そのうち 2 本がイントネーションに関するもので、もう 1 本がアクセントに関するものであり、そもそも分節音の研究は多くないと思われる。しかし、学習者の母音の弁別の問題がまったく指摘されていないわけではない。助川 (1993) では、12 の言語を母語とする学習者について、23 名の調査対象者の日本語の発音についての教育経験と研究歴を有する人に、170 の音声に関する項目についてアンケート調査を行っている。指摘が多かった項目の上位には「長音の長さが不十分」などの特殊拍の発音の問題が集まっている。母音の弁別に関する項目としては、28 位に「エ段→イ段 (エ段に聞こえるべき音がイ段に聞こえる)」が挙げられている。この中には、日本語よりも母音数が少ないとされるアラビア語を母語とする学習者だけではなく、日本語より母音数が多いとされるモンゴル語やドイツ語、タイ語、中国語の学習者に対する指摘も含まれている。なお、助川 (1993) ではフィリピン人学習者は対象とされていない。日本語教育実践としても、母音の区別に関する取り組みは多くないものと思われる。学習者向けの音声学習用の教材には、そもそも分節音の学習や練習問題が収録されているものが少ない。田中・窪園 (1999)、木下・中川 (2019) には、母音の無声化や子音の弁別と同じ章や課の中で母音の発音の仕方が解説されているものの、母音の弁別に焦点を当てた練習問題はほとんどない。以上のことから、日本語教育における音声の研究や教育は盛んでなく、特に分節音、中でも母音の弁別に関する研究・教育はごく少ないと言える。しかし前述したように、扱う項目や学習者の母語が多い調査では母音の弁別に関する指摘もされている。

³ただし、シリア・パレスチナ方言では [ɑ/ɑː] のほかに [æ/æː または e/eː] が独立した音素として存在する (亀井 1988)。

1.5 先行研究

フィリピン人日本語学習者の音声に対する研究はそもそも多くない。タガログ語を母語とする学習者や、母語を問わず「フィリピン人」を対象とした学習者の音声研究には、ガリエーゴ (2011, 2012) がある。ガリエーゴ (2011) ではアクセントと母音の長短に関する分析が行われている。

丸島 (2016) では、セブアノ語を母語とする日本語学習者を対象に、日本語母音の聞き取りの誤答にどのような傾向が見られるか検証している。母音に関する誤りは音の誤りのうち26%で、特殊拍の誤りに次いで多かった。母音の誤りのうち、ウ段・オ段間の誤りが73%を占めており、イ段・エ段音間の誤りが23%と、これに次いで多かった。また個人差も大きく、5母音の聞き分けの誤りが1%に満たない学習者がいる一方で、特にウ段・オ段間の誤りがウ段・オ段の母音全体の6%程度の学習者も見られた。この学習者は拗音での誤りが多く、ウ段・オ段間の誤り39件のうち、17件が拗音での誤りであった。

2 目的

筆者は丸島 (2016) でセブアノ語を母語とするフィリピン人日本語学習者の分析を行ったが、本稿ではタガログ語・北部イロカノ語・カンカナウイ語の話者である学習者のデータの分析を行う。丸島 (2016) で扱ったデータは3名のセブアノ語母語話者によるものだったが、そのうち2名はタガログ語もネイティブレベルだと述べている。本稿で扱うデータも多言語話者によるものだが、丸島 (2016) と比較しながら、多様な言語背景を持つフィリピン人日本語学習者の日本語習得過程における母音知覚の一例として提示したい。

3 方法

3.1 学習者

日本国内の予備教育機関で日本語を学習するフィリピン人日本語学習者1名(20代男性)を被験者とする。第一言語はタガログ語、北部イロカノ語、カンカナウイ語の3言語⁴で、これ以外の言語のレベルは、英語 (fluent)、日本語 (basic) であると自己申告した⁵。なお、母国で150時間程度日本語を学習してから来日し、半年ほど日本で日本語を学習している。データ収集時のレベルは初級後半程度である。

3.2 分析資料

分析資料は、丸島 (2016) の資料と同時に、同じ方法で収集されたものである。日本国内の日本語の予備教育機関で2016年度前期に開講された、初級後半レベルの総合クラスにおいて、ほぼ毎日実施されていた語彙テストを資料としている。テキスト『みんなの日本語 第二版 初級 I・II 本冊』および『みんなの日本語 第二版 初級 I・II 翻訳・文法解説⁶』に掲載されている各課の語彙を用いた。日本語を母語とする教師⁷が数回ずつ設問を読み上げ、学習者がそれを聞き取って記述した。回答を行う際は、カタカナで書くべき語はカタカナ、それ以外はひらがなで記述するよう指示した。記録できたテストは48回分であるが、本稿の被験者については43回分のテストを記録しており、それを資料とした。

⁴この3言語のなかでどれがもっとも優位かたずねたが、どれも同じだと回答した。ただしそれぞれの言語を用いる場面は異なっており、カンカナウイ語は家族や近所の人と話すとき、イロカノ語は街に出たとき、マニラなどの他地域や仕事ではタガログ語を話すときと答えた。筆者は本稿でのデータとは別に、同じ被験者でカンカナウイ語の基礎語彙の音声収録を行ったが、いくつかの語彙については「思い出せない」と述べており、カンカナウイ語の優位性は低いと思われる。この頃、この被験者はほかの地域出身のフィリピン人学習者と多く時間をともにしており、その点からもタガログ語でのコミュニケーションが優位であると思われる。

⁵第一言語以外の言語のレベルは、1.native or bilingual, 2.fluent, 3.intermediate, 4.basic の4レベルから選択させた。

⁶被験者は、英語版を使用している。

⁷曜日によってクラスを担当する教師は異なり、読み上げを行ったのは3名の教師である。

学習者はあらかじめ出題範囲を知っているため、丸暗記すれば聞き取りが正確にできなくても正答できるが、実際には音の聞き取りの誤りだと思われる誤答が見られた。

3.3 解析方法

解析方法も丸島 (2016) と同様である。記録してあるテストの解答用紙から、誤りをすべて記述し、整理した。1つの語彙で複数の誤りがあるものは、それぞれの誤りを1つとカウントしている。たとえば、「ドライバー」を「どらいぼ」と誤答した場合、以下の表1のように分析した⁸。

表1：誤答分析の例

正答	誤答	誤り
ドライバー	どらいぼ	長音の脱落
		母音 (a→o)

さらに、そこから母音の誤りを抽出し、どの母音とどの母音を混同しているのかを整理した。また、誤りがみられた音節の位置を「語頭」「語中」「語末」の3パターンに分類した。

4 結果

4.1 誤り全体の傾向

43回分のテスト (計430問) のテストで、音に関する誤りの数は107個であった。その中で母音の誤りと分析された誤りは43個で、全体の40%にのぼった (表2)。特殊拍に関する誤りも合わせると43個で同数だが、日本語学習者の特殊拍に関する研究や教育実践は多く、ここではより特徴的であると思われる母音のみについて、より詳細に分析していくこととする。

⁸なお、本稿の分析では音の聞き取りに焦点を当てているため、ひらがなとカタカナの区別など、文字の種類や字形などは問題にしていない。

表 2 : 誤りの件数と割合

誤りの種類	誤りの件数	割合
母音	43	40%
子音・清濁	10	9%
子音・他	2	2%
特殊拍・長音	28	26%
特殊拍・促音	13	12%
特殊拍・撥音	2	2%
その他	9	8%
計	107	100%

4.2 混同が起きやすい母音

どの母音をどのように誤ったのか、全ての母音の誤りを分類した (表 3)。ウ段とオ段の混同が特に多く、母音の誤り全体のうち 70%を占めている。オ段をウ段と混同した誤答は全部で 18 件であるが、「くっち (こっち)」「くっかいぎじどう (国会議事堂)」「けんくう (健康)」など、「こ」を「く」としているものが 9 件であり、半分を占めていた。また、「ちゅうせつします (調節します)」「ちゅうどいい (ちょうどいい)」のように「ちょ」を「ちゅ」としているものが 3 件あった。ウ段をオ段と混同した誤答については、「メーとロ (メートル)」「しよろい (書類)」のように「る」を「ろ」としているものが 4 件、「にゅうりょこします (入力します)」「ほんやこします (翻訳します)」のように「く」を「こ」としているものが 2 件見られた。この特徴がこの話者に特徴的なものなのか、フィリピン人学習者に共通して見られる傾向であるのかは、今回のデータだけでは明らかにできないが、直前の子音の種類によって、聞き取りに影響がある可能性はある。

次いでイ段とエ段の混同は計 13%である。件数にすると 10 件であったが、「け」を「き」としたもの (「きよつきます (気を付けます)」「きしき (景色))、「れ」を「り」としたもの (「はずります (外れます)」「しつりいたします (失礼いたします))、「り」を「れ」としたもの (「クレーニン

グ (クリーニング)」「とれかえます (取り替えます)」) がそれぞれ 2 件ずつ見られた。

それ以外の誤りは 7% で、件数にするとわずか 3 件である。「メールアドルス (メールアドレス)」のような誤答が見られた。

表 3：母音誤りの種類別件数と割合

母音誤りの種類	母音誤りの件数	割合
/i/→/e/	4	9%
/u/→/o/	12	28%
/e/→/i/	6	14%
/o/→/u/	18	42%
その他	3	7%
計	43	100%

しかし、そもそも出題されている語彙に含まれる母音の数は均等でない。これを考慮した上で、出題された語彙に含まれる母音の総数における誤りの割合を算出したのが以下の表 4 である。Fisher の正確性検定を行ったところ、 p 値は 0.0016 で、有意差が認められた。母音の誤りの種類によって誤りが起こる確率に違いがあると言える。イ段・エ段間よりウ段・オ段間の誤りが多いことはすでに述べたが、狭母音を半狭母音に聞き間違える割合よりも、半狭母音を狭母音に聞き間違える割合の方が高いことが見て取れる。

表 4：母音誤りの件数と出現率 (種類別)

	/i/→/e/	/u/→/o/	/e/→/i/	/o/→/u/
総数	382	374	152	282
誤り数	4	12	6	18
誤りの出現率	1.0%	3.2%	3.9%	6.4%

4.3 母音の誤りと位置環境

次に、母音の誤りが語句のどの位置で起こりやすいのか、語頭、語中、語末に分類した。件数で単純な比較はできないので、位置ごとに誤りが起こる割合で算出したのが以下の表 5 である⁹。語頭>語中>語末の順になっているものの、大きな差は見られない。Fisher の正確性検定を行ったところ、 p 値は 0.1934 で、有意差も認められなかった。

表 5：母音誤りの件数と出現数（位置別）

	語頭	語中	語末
総数	460	782	421
誤り数	17	18	8
誤りの出現率	3.7%	2.3%	1.9%

5 考察

タガログ語・北部イロカノ語・カンカナウイ語話者であるフィリピン人日本語学習者の母音の聞き取りについてデータを整理した。母音の誤りが顕著で、その中でもウ段・オ段間、イ段・エ段間の誤りが目立った。また、特に半狭母音を狭母音と回答する誤りが多く見られた。

ウ段・オ段間の誤りは、カ行音で起こることが多かった。日本語のカ行子音は無声軟口蓋破裂音であり、日本語の子音の中では比較的調音点が後部に位置している子音である。子音の調音時に後舌が動くことが、学習者の後舌母音の知覚に影響を与えた可能性がある。また、チャ行音やラ行音でもウ段・オ段間の誤りが比較的多かった。これらの子音は歯茎音で舌端が動く音である。このことがやはり学習者の後舌母音の知覚に影響を与えた可能性がある。

イ段・エ段間ではウ段・オ段間ほど顕著な傾向はないが、カ行音とラ行音での誤りが複数観察された。前舌母音の知覚についても、舌の前部や後部が動く子音の直後の環境では、聞き誤りが多くなる可能性がある。

⁹誤りの位置には、アクセントの影響が関与している可能性がある。しかし、読み上げた教師の母方言がさまざまであり、中には無アクセント地域出身であると思われる教師もいるため、ここではアクセントの影響は考慮しないこととする。

次に、学習者の母語からの転移の可能性を考えてみたい。脚注4で述べたとおり、本稿で扱ったデータの学習者は3言語を第一言語だと述べているが、カンカナウイ語の優位性は高くなく、データ収録時においては日常的にタガログ語を多く用いていると思われる。学習者が第一言語と申告した3言語の音声的・音韻的特徴から、その影響を検討したい。

タガログ語の単母音は /i/, /e/, /a/, /o/, /u/ の5つとされる。日本語の母音の聞き分けや発音の問題が指摘されているのは、アラビア語など、日本語より母音数が少ない言語を母語とする学習者が中心である。ではなぜ、日本語の母音体系と近い体系を持つと思われるタガログ語を第一言語の一つとする学習者で、このような誤りが多く見られたのだろうか。

Delos et al.(2009) によれば、タガログ語母語話者のフィリピン語¹⁰の [u] と [o] の発音は音響的に差が見られず、[i] と [e] も第1フォルマントに差が見られるものの第2フォルマントには顕著な差がない¹¹。音韻的に母音の弁別があるとされていても、音響的な実態としては区別がない、もしくは顕著な差がない場合がある。本稿の学習者も、タガログ語においてそのような音声的特徴を有していれば、学習言語である日本語の聴取や発音の際に転移する可能性もあるだろう。

また、学習者自身がタガログ語以外に第一言語として挙げているイロカノ語とカンカナウイ語については、どちらも4母音としている研究が多い。Talavera et al. (2013) ではイロカノ語の母音を、音響分析をもとに [a], [i], [o], [ɔ] の4母音体系であるとしている。本稿の学習者も、第一言語の一つが日本語とは異なる母音体系を持つことで、イ段とエ段、ウ段とオ段の母音の聞き分けをより困難にしている可能性がある。Delos et al.(2009) では、イロカノ語母語話者のフィリピン語の母音の音響分析も行っており、それによれば [u] と [o] の発音は音響的に非常に近く、[i] と [e] についてもタガログ語母語話者同様、第1フォルマントには多少の差異が見られるものの、第2フォルマントにはほとんど差が見られない。このことから、

¹⁰実質的にはタガログ語とほとんど同一であると思われる。

¹¹筆者がフィリピンで日本語を教える日本語母語話者の日本語教師に個人的に聞いた話によると、タガログ語母語話者もイ段・エ段、ウ段・オ段間の母音の発音の区別や聴取時の弁別に困難を覚えることが多いそうである。

イロカノ語母語話者が日本語の音声においても、ウ段とオ段、イ段とエ段を混同しやすい可能性が考えられる。

カンカナウイ語については、Allen(1977)によれば i, e, o, a の 4 母音体系だとされている。また、特に e ではバリエーションの幅が大きく、垂直方向には狭母音から中央母音、水平方向には中舌から後舌までの幅があると述べている。本稿の学習者はカンカナウイ語の優位性は高くないと思われるが、少なくともカンカナウイ語の母音体系が、日本語母音の弁別に正の転移をもたらすとは考えにくいだろう。

1.5 で述べた通り、フィリピン人日本語学習者を対象とした研究は少ない。音韻的にはタガログ語が 5 母音体系を有することで、日本語の母音の弁別に困難が生じる可能性が考えられてこなかった可能性がある。しかし先に挙げたように、音韻的な体系だけではなく実際の音声の実態を明らかにしなければ、母語からの負の転移を予測できない場合がある。

また、日本語よりも母音数が多ければ母音の区別に問題を生じないわけではない。注 2 で助川 (1993) の調査結果について述べたとおり、学習者の母語の母音数が日本語よりも多くても、母音の区別の問題が指摘されることもある。これにはさまざまな要因が考えられるが、学習言語と母語の母音体系の違いが負の転移をもたらす可能性が考えられる。たとえば、金・丸島 (2021) で行われたミャンマー人日本語学習者の発音の誤用分析においては、被験者である 7 名の学習者全員で母音の誤りが観察されている。彼らの母語であるビルマ語の母音は開口度が狭母音 (/i, u/)、半狭母音 (/e, o/)、半広母音 (/ɛ, ɔ/)、広母音 (/a/) の 4 段階に分かれるのに対して、日本語は 3 段階である (澤田 1999)。金・丸島 (2021) では、母語の母音が学習言語である日本語の母音に対応していないことが、発音の誤りにつながっていることが指摘されている。助川 (1993) や金・丸島 (2021) は、知覚ではなく発音に関する研究ではあるが、母語の音韻的体系のみに注目しているのは、母音の誤りが見落とされるおそれがあるということを示唆していると言えるだろう。

丸島 (2016) では 3 母音体系を有するとされるセブアノ語を母語とする学習者を研究対象としたが、5 母音体系のタガログ語や 4 母音、もしくは 5 母音体系とされるイロカノ語、カンカナウイ語の話者である今回の学習

者は、ウ段・オ段間とイ段・エ段間の誤りが多いこと、その中でも半狭母音を狭母音と聞き間違える誤りが特に多い点が共通しており、母音の誤りの数や傾向にそれほど大きな違いはなかった。このことには、学習者の母語や第二言語の自己評価と実態の差異が関係している可能性がある。本稿の被験者は、タガログ語を第一言語の一つとして挙げていた一方で、丸島 (2016) で扱った3名のセブアノ語母語話者は、第二言語としてタガログ語を挙げていた。しかし、本稿の学習者と丸島 (2016) の学習者とは、国語であるフィリピン語に実質的に等しいタガログ語の使用頻度や能力に、それほど差がなかった可能性もある。特に丸島 (2016) のセブアノ語母語話者の3名のうち、2名がタガログ語を第一言語には挙げなかったものの、「native or bilingual」レベルであると申告している。したがって、本稿の学習者も、丸島 (2016) で扱った学習者も、どちらもタガログ語の影響を大きく受けている可能性がある。何を自身の第一言語とし、何を第二言語であると考えかは、単に言語能力や言語使用状況だけではなく、その言語集団への帰属意識や自己のアイデンティティも関わっていると思われる。

また、本稿のデータを収集したのと同じ時期に、筆者は本稿の被験者に対してカンカナウイ語の基礎語彙とその発音に関する調査を行っているが、被験者が思い出せない語彙やタガログ語からの借用と思われる語彙も複数あった。状況に応じてのコードミキシングなど、複雑な言語使用が行われている可能性もある。以上のことは、話者が申告する第一言語の情報のみでは、学習言語の音声への転移の様相が予測しにくいことを示唆していると言えるだろう。

本稿の学習者と丸島 (2016) で扱った話者との間に大きな差異がなかったことについては先ほど述べたが、セブアノ語母語話者3名のうち1名は、母音に関する誤りの出現率が1%に満たなかった。Delos et al.(2009) ではセブアノ語母語話者のフィリピン語の母音についても音響分析を行っているが、タガログ語母語話者やイロカノ語母語話者が [u] と [o] などの一部の母音をほとんど区別せずに調音しているのと異なり、5母音を音響的に明確に発音し分けていた。このことも、母音の発音の区別は、音韻的な母音体系だけでは予測できない場合があることを示していると言えるのではないだろうか。日本語音声の知覚においても、タガログ語母語話者やイロカ

ノ語母語話者よりもセブアノ語母語話者のほうがウ段・オ段間、あるいはイ段・エ段間の弁別が明確である学習者が多い可能性はある。しかし、フィリピン人の多言語話者の日本語母音知覚には、第一言語や第二言語からの影響以上に個人差の影響が大きい可能性も考えられる。本稿および丸島 (2016) のデータだけでは明らかにできないため、今後の課題としたい。

6 まとめ

本稿では、タガログ語、北部イロカノ語、カンカナウイ語の話者である日本語学習者の母音知覚に関するデータの分析を行った。ウ段・オ段間の誤りが特に多く、次いでイ段・エ段間の誤りが多く観察された。どちらも直前の子音の影響がある可能性があり、後舌が動く子音や舌端が動く子音の直後の母音で、聞き誤りが起こることが多かった。

また、半狭母音を狭母音と判別する割合が高いことも観察された。これには学習者の第一言語の母音体系が影響している可能性もあるが、先行研究によれば音韻的な母音体系と話者の実際の音声との間に乖離がある場合があり、その影響は本稿のデータのみでは明らかにできない。第一言語の母音の発音に位相差や個人差がある可能性もあることから、学習者自身の第一言語の音声の母音の音響データと比較する必要があるだろう。

本稿で見られた誤りの傾向は、丸島 (2016) で扱ったセブアノ語母語話者の日本語母音知覚と類似していた。第一言語が異なるにも関わらず、同様の傾向が見られたことには、話者が自身の第一言語をどう定義するかと、実際の言語使用の実態の違いが影響していると思われる。

フィリピン人学習者の音声知覚への第一言語からの転移については、多言語使用者ゆえの複雑さがあると思われる。学習者自身の第一言語・第二言語の音声の分析や、言語意識や言語使用に関する調査を行うことで、詳細で正確な分析が可能になるとと思われる。今後の課題としたい。

日本語学習者における母音知覚に関する研究はこれまであまり行われていない。これは、多くの日本語学習者の母語が日本語よりも母音数が多いことが理由であると考えられる。しかし母音の知覚や産出に問題があれば、コミュニケーション上かなりの困難をもたらすおそれがある。

コロナ禍により日本で暮らす外国人や訪れる外国人は減少しているものの、それ以前の2019年には過去最高の在留数を記録し [出入国在留管理庁 online: [nyuukokukanri04_00003.html](https://www.mof.go.jp/nyuukokukanri/04_00003.html)]、大局的に見れば増加していると言える。今後、日本国内に住む日本語母語話者が非母語話者の話す日本語に接する機会もますます増えていくものと思われる。現在、多くの自治体等で、語彙を易しく構文を単純にした文体である〈やさしい日本語〉の研修や啓発活動が盛んに行われている。〈やさしい日本語〉はもともと、1995年に起こった阪神大震災で在留外国人が正確な情報を得られないために二次的な被害を受けたことを反省に作られた文体で、災害時の活用を念頭に開発・普及が行われてきた。近年、在留外国人が増加していることを背景に、多言語対応と並んで〈やさしい日本語〉での情報提供が、自治体、学校、病院などで行われるようになった。文字言語での情報提供に関しては字体やルビの使い方などを含め、ある程度の基準やノウハウが構築されているように思われるが、音声言語に関しては「明瞭に発音する」以上のことが言われることが少ない。日本語非母語話者が理解しやすい音声を考えるためにも、母音の弁別を含めた学習者の音声知覚についてさらに研究が進められることが望まれる。このような知見が蓄積することで、コミュニケーションに問題が起こった際に、適切なコミュニケーション・ストラテジーが採れる可能性が高くなると考えられる。

日本語学習者の音声知覚・産出に関する知見は、これまでも音声教育の分野で活用されてきた。さらに日本語の社会における多数派が、非母語話者とどのように関わるかについてのヒントを提供できる可能性があると考ええる。

【参考文献】

- Allen, Lawrence (1977) 'Reduplication and cyclical rule ordering in Kankanaey morphophonemics'. *Studies in Philippine Linguistics* 1.2: 280-290.
- Brown and Ogilvie (ed.) (2008) *Concise Encyclopedia of Languages of the World, 1st Edition*. New York: Elsevier Science.
- Delos Reyes, J., Santiago, P. J., Tadena, D., & Zubiri, L. A. (2009) 'Acoustic characteristics of the Filipino vowel space'. *Proceedings of the 6th National Natural Language Processing Research Symposium*: 7-11.
- 本田弘之ほか (2019) 『改訂版・日本語教育学の歩き方—初学者のための研究ガイド』大阪大学出版会
- ガリエーゴ ニーニャ (2011) 「タガログ語を母語とする日本語学習者の産出に見られる母音の長短とアクセント」『国際協力研究誌』17-1 : 71-88.
- ガリエーゴ ニーニャ (2012) 「フィリピン人日本語学習者の母音長の知覚」『国際協力研究誌』18-3 : 137-147.
- 亀井孝ほか (編) (1988) 『言語学大辞典 (第1巻) 世界言語編 (上) あ-こ』三省堂
- 亀井孝ほか (編) (1989) 『言語学大辞典 (第2巻) 世界言語編 (中) さ-に』三省堂
- 亀井孝ほか (編) (1992) 『言語学大辞典 (第3巻) 世界言語編 (下-1) ぬ-ほ』三省堂
- 金美兒 (2004) 「フィリピンの教授用語政策—多言語国家における効果的な教授用語に関する一考察」『国際研究フォーラム』25 : 99-112.
- 金瑜眞・丸島歩 (2021) 「ミャンマー人学習者の日本語発音の特徴について—教科書の読み上げデータから」『筑波応用言語学研究』28 : 16-29.
- 木下直子・中川千恵子 (2019) 『ひとりでも学べる日本語の発音—OJADで調べて Praat で確かめよう』ひつじ書房
- 国際交流基金 (2009) 『国際交流基金日本語教授法シリーズ 第2巻「音声を教える」』ひつじ書房

国際交流基金 (2020)「海外の日本語教育の現状—2018年度日本語教育機関調査より」

<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey2018/all.pdf>
(2022年10月13日)

丸島歩 (2016)「セブアノ語を母語とする日本語学習者の母音知覚に関する予備的考察」『言語学論叢 (オンライン版)』9: 15-27.

日本学生支援機構「2021 (令和3) 年度外国人留学生在籍状況調査結果」
https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2022/03/date2021z.pdf (2022年10月13日)

Omniglot ‘Kankanaey’ <https://omniglot.com/writing/kankanaey.htm> (2022年10月13日)

澤田英夫 (1999)『ビルマ語の音声と文字』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

出入国在留管理庁「令和元年末現在における在留外国人数について」
https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/nyuukokukanri04_00003.html
(2022年10月14日)

出入国在留管理庁「令和3年末現在における在留外国人数について」
https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00001.html (2022年10月13日)

助川泰彦 (1993)「母語別に見た発音の傾向—アンケート調査の結果から」『日本語音声と日本語教育』: 187-222.

Talavera, Jezia et al. (2013) ‘The Sound Systems of Inivadoy and Ilokano: An Acoustic Phonetics Approach’. *Proceedings of Division Seminar-Workshop on Working Orthography Finalization of the Four Major Mother Tongues in Benguet.*

田中真一・窪園晴夫 (1999)『日本語の発音教室—理論と練習』くろしお出版

【分析資料】

スリーエーネットワーク (2012)『みんなの日本語 初級 I 第2版 本冊』

- スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 翻訳・
文法解説 英語版』
- スリーエーネットワーク (2013) 『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 本冊』
- スリーエーネットワーク (2013) 『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 翻訳・
文法解説 英語版』

Perception of Japanese Language Vowels by a Filipino Multilingual Speaker: A Tagalog, Northern Ilocano, and Kankanaey Speaker as an Example

Ayumi MARUSHIMA

I analyzed data on how native Cebuano speakers recognize Japanese vowels in a previous study. The result showed that some of them find it difficult to differentiate /o/ from /u/ and /e/ from /i/.

I recorded data about one Filipino multilingual speaker at the same time. He speaks Tagalog, northern Ilocano, and Kankanaey as his first languages.

This note aims to analyze the data and provide an example of the process of how Japanese language learners with complex backgrounds in languages learn the vowels of a target language.

My analysis found that the multilingual speaker also sometimes confused /o/ with /u/ and /e/ with /i/, regardless of the assumption that the speaker could distinguish all Japanese five vowels because Tagalog also has five vowels. This is probably because native Tagalog speakers do not pronounce /o/ and /u/ differently, and pronounce /e/ similar to /i/ when speaking Filipino.

Faculty of Humanities

Hokkai-Gakuen University

1-40-4, Asahi-machi, Toyohira, Sapporo, Hokkaido 062-8605, Japan

E-mail: ayumi_marushima@yahoo.co.jp

Appendix

本稿の分析データを、以下の表にまとめる。

テストの実施日と教材の出題範囲、正答、誤答 (音声知覚の誤りである可能性があるもののみ) をそれぞれ示してある。なお、同じ出題範囲から複数回のテストを行っていることもあるため、同じ語や表現が複数回出題されている場合がある。

実施日	出題範囲	正答	誤答
2016/5/6	L19	そうじします	
		せんたくします	
		つよい	
		れんしゅう	
		ゴルフ	
		ちょうし	ちゅうし
		もうすぐ	もそうぐ
		おかげさまで	
		ダイエット	
		すもう	
2016/5/9	L20	しゅうりします	
		うん	
		ううん	
		ピザ	
		みんなで	
		きもの	
		こっち	くっち
		どっち	とっち
		ぼく	ぼっく
		きみ	

2016/5/11	L22	かぶります	
		うまれます	
		コート	
		セーター	
		スーツ	
		ユーモア	
		つごう	
		ケーキ	
		ダイニングキッチン	グイニグキッチン
		えーと	
2016/5/16	L25	かんがえます	
		いなか	
		チャンス	ツチャンス
		もし	
		いみ	
		もしもし	
		てんきん	
		ひま	
		おせわになりました。	
		どうぞおげんきで。	
2016/5/17	L1~4	カード	
		しょくどう	しょつくどう
		びょういん	
		べんきょうします	
		ざっし	
		きょうし	
		きょう	
		エレベーター	エレベータ
		てちょう	てつちょう
えいが			

2016/5/23	L17～20	しゅうりします	
		れんしゅう	
		メートル	メートル
		どっち	とっち
		ざんぎょうします	
		しゃちょう	
		すもう	
		ビザ	
		どうぶつ	
		しゅつちょうします	
2016/5/24	L21～25	りゅうがくします	
		こしょう	くしょう
		しょうかいします	
		ケーキ	
		いなか	
		ちゅうしゃじょう	ちゅうしゃしょう
		じゅんぴ	
		チャンス	ツャンス
		きをつけます	きよつきます
		スーツ	
2016/5/26	L26	まにあいます	
		きぶんがわるい	
		フリーマーケット	
		こっかいぎじどう	くっかいぎじどう
		へいじつ	へいじつ
		ちよくせつ	ちようくせつ
		ひろいます	
		れんらくします	
		うんどうかい	うんどかい
		ちよくせつ	ちようくせつ

2016/6/1		おくれます	
		やります	
		きぶんがいい	
		ばしょ	ばしゅう
		ボランティア	ボランティアー
		さいふ	
		ちよくせつ	ちょうくせつ
		かたづきます	
		かんがえます	
		ガス	
2016/6/2	L27	かいます	
		あきます	
		こえ	
		クリーニング	クレーニング
		どうぐ	どうご
		パーティールーム	パーティローマ
		はっきり	
		ペット	
		いえ	
		しゅじんこう	しゅじんくう
		2016/6/7	L28
しょうせつか			
だいどころ			
えらびます			
えらい			
けしき	きしき		
けいけん			
ねだん			
ちょうどいい	ちゅうどいい		
うれます	おれます		

2016/6/8	L29	コップ	
		しまります	
		よごれます	
		へんじ	
		ちやわん	
		ガラス	
		しよるい	しよろい
		スピーチ	スピーテ
		こわれます	
		やぶれます	
		2016/6/9	L29
ポケット			
レポーター			
こうばん			
えきいん			
はずれます	はずります		
とりかえます	とれかえます		
しよるい	しよろい		
ふくろ			
きえます	けえます		
2016/6/10	L30		
		ミーティング	ミテニング
		よてい	
		ろうか	るうか
		ガイドブック	
		こうぎ	
		じゅぎょう	
		ポスター	
		リュック	
		かざります	

2016/6/14	L31	れんきゆう	
		ほんしゃ	
		きょうかい	
		どうぶつえん	
		もうしこみます	
		おこさん	おくさん
		ずっと	
		さくぶん	
		はっぴょう	
		けっこんしき	
2016/6/20	L33	さわぎます	
		しゅっせきします	
		つたえます	
		けいさつ	
		マーク	
		しょうきんし	
		じょこう	
		ひじょうぐち	ひじょうぐち
		むりょう	
		のみほうだい	
2016/6/21		まもります	
		ちゅういします	
		リサイクルします	
		ボール	
		きけん	きけいん
		たちいりきんし	
		わりびき	
		しょうちゅう	
		ぼしゅうちゅう	
		おなじ	

2016/6/22	L34	みがきます	
		みつかります	
		せつめいしょ	せつめいしょう
		きいろ	
		ちやいろ	
		おきやくさん	
		ソース	
		ゆうべ	
		さどう	
		ざいりょう	
2016/6/27	L35	なおります	
		にゆうりよくします	にゆうりよこします
		ただし	
		おくじょう	
		かいがい	
		きかい	
		ふりがな	
		レバー	
		キー	
		すいはんき	すいばんき
2016/6/28	L36	ちよきんします	ちゆうきんします
		けんどう	
		ラッシュ	ラッシュヨ
		まいしゅう	
		やつと	
		かなり	
		ぜったいに	
		ほとんど	ほとんどう
		おきやくさま	
		すいえい	

2016/6/29		きよく	
		くさります	
		うちゅう	うつつ
		けんどう	
		まいしゅう	
		やっと	
		じょうずに	
		できるだけ	
		ほとんど	ほとんどう
		チャレンジします	チャレンジします
2016/7/1	L37	しかります	
		おこないます	おこないます
		ゆしゆつします	
		ゆにゆうします	
		インスタントラーメン	
		どろぼう	
		だれか	
		オリンピック	
		みなさま	みなさま
		ほんやくします	ほんやくします
2016/7/5	L38	たいいんします	たいいんします
		きります	
		おおきな	おおきな
		ちゅうがっこう	
		かいがん	
		むら	
		しゅうかん	
		けんこう	けんこう
		きちんと	
しょうがっこう			

2016/7/6	L39	がっかりします	
		たおれます	
		ふくざつな	ふくざつな
		かたい	
		しゅしょう	
		じこ	
		ハイキング	
		そうさ	スルーサ
		フロント	
		おおぜい	おおぜ
2016/7/8	L40	しゅっぱつします	
		よいます	
		ひつよう	ひつつよ
		ぼうねんかい	
		たいかい	
		コンテスト	
		ズボン	
		まちがい	
		ながさ	
		おとしより	おとしいより
2016/7/11		はかります	
		たしかめます	
		そうだんします	
		てんきよほう	
		にじかい	
		おもて	
		きず	
		おもさ	
		おおきさ	
		グラム	

2016/7/12	L41	いただきます	
		やります	
		かわいい	かわい
		おとしま	
		きょうみ	
		おもちゃ	おもじゃ
		じょうほう	じょほう
		ドライバー	どらいぼ
		だんぼう	
		おんど	おんどう
2016/7/13		くださいます	
		めずらしい	みずらしい
		おいわい	
		おみまい	
		はつおん	
		えはがき	
		ようちえん	
		れいぼう	
		かんりにん	
		このあいだ	くのあいだ
2016/7/14	L42	けいさんします	
		ならびます	
		アパート	
		べんごし	
		しぜん	
		せんそう	
		もくてき	
		ミキサー	
		せんぬき	
		のしぶくろ	

2016/7/15		つつみます	
		じょうぶ	
		おんがくか	
		きょういく	
		ぶんか	
		しゃかい	
		ほうりつ	
		ろんぶん	
		やかん	
		たいおんけい	
2016/7/18	L43	ふえます	
		おちます	
		へん	べん
		らく	らつく
		うまい	
		まずい	
		ガソリン	
		パンフレット	パンフレト
		いまにも	
		ボタン	
2016/7/19		へります	
		きれます	
		なくなります	
		しあわせ	
		つまらない	
		やさしい	
		パンフレット	パンフレト
		ひ	
		ドライブ	
		あやまります	

2016/7/20	L44	わらいます	
		ねむります	
		すべります	
		あんぜん	
		こい	
		ふとい	
		くうき	
		りょう	
		シングル	
		せんたくもの	
		2016/7/21	L44
ちょうせつします	ちゅうせつします		
きけん	きけいん		
うすい			
なみだ			
わしよく	わしように		
おかず			
ツイン			
せんたくもの			
シャンプー	シャンプ		
2016/8/1	L45		
		しらせます	
		りょうしゅうしょ	
		キャンプ	キャンプ
		ちゅうしゃじょう	ちゅうしゃしょう
		うめ	
		きゅうに	
		むりに	もりに
		コース	
		なやみ	

2016/8/2		しんじます	
		ほしようしょ	
		キャンプ	キャンプ
		ちゅうしゃじょう	ちゅうしゃしょう
		いじょうです	
		てん	
		キャンセルします	キアンセルします
		かかりいん	
		ゆうしょうします	
		かいとう	
2016/8/3	L46	かえてきます	かえてきます
		とどきます	とどうきます
		そつぎょうします	
		るす	
		たくはいびん	
		げんいん	
		こちら	
		はんとし	
		ちょうどいい	ちゅうどいい
		たつたいま	
2016/8/4		わたします	
		でます	
		にゆうがくします	
		そつぎょうします	
		やけます	
		やきます	
		げんいん	
		ちょうどいい	ちゅうどいい
		ガスレンジ	
		ベル	

2016/8/5	L47	あつまります	
		きびしい	
		わかれます	
		こわい	
		データ	
		におい	
		いがく	
		パトカー	
		はんたい	
		だいとうりょう	
		2016/8/8	L47
あつまります			
ひどい			
じっけん			
じんこう			
かがく			
ぶんがく	ぶうんがく		
きゆうきゆうしゃ			
さんせい			
しりあいます			
2016/8/9	L48		
		とどけます	
		ろくおんします	
		いや	
		じゆく	
		せいと	
		じゆうに	しゆうに
		えいぎょう	えぎょう
		しょうがくせい	しょうがつくせい
		おや	

2016/8/10		せわをします			
		ろくおんします			
		いや			
		じゆく			
		ファイル	フィール		
		じゆうに	しゆうに		
		かまいません			
		しゆうじ			
		ふつうの			
		おいそがしいですか	おいそかしいですか		
2016/8/11	L49	りようします	りようします		
		すごします	そごします		
		めしあがります			
		ごらんになります			
		あいさつ			
		バスてい			
		たまに			
		おくさま			
		しつれいいいたします	しつりいたします		
		けいれき			
		2016/8/12		つとめます	
				いらっしゃいます	いらしゃいます
おっしゃいます	おしゃいます				
ごぞんじです					
りよかん	りゆかん				
バスてい					
おくさま					
たまに					
だします					
よろしくおつたえください	よろしくおつたいください				

2016/8/15	L50	まいります	
		もうします	
		いたします	
		うかがいます	
		いれます	
		わたくし	
		ガイド	
		スケジュール	
		さらいしゅう	
		しょうきん	
		2016/8/16	L50
おります			
いたします			
はいけんします			
ガイド			
メールアドレス	メールアドレス		
さらいげつ			
さらいねん			
もうします			
よういします			